

戦争体験の継承に向けた取り組み

2025. 8. 3 帰還者たちの記憶ミュージアム（平和祈念展示資料館）
学芸マネージャー 加藤つむぎ



帰還者たちの記憶ミュージアム
MEMORIAL MUSEUM FOR SOLDIERS, DETAINEES IN SIBERIA,
AND POSTWAR REPATRIATES 平和祈念展示資料館 [総務省委託]

帰還者たちの記憶ミュージアム(平和祈念展示資料館)とは

2000(平成12)年11月 開館 (平和祈念事業特別基金)

2018(平成30)年 3月 リニューアル開館(新宿住友ビル33階に移転)

2024(令和6)年 7月 愛称を「帰還者たちの記憶ミュージアム」と制定

兵士、戦後強制抑留者(シベリア抑留者)、海外からの引揚者の労苦を伝える資料館



体験者による記憶の継承事業～語り部お話し会

対面方式



オンライン方式



次世代による継承の試み

1. 非体験者による語り継ぎ

- 一人芝居や朗読劇による体験手記の公開
- 語り部(故人)と家族、関係者による語り継ぎ
- 学芸員・解説員による証言映像解説と語り継ぎ

2. 新技術を用いた戦争体験の継承

- バーチャル資料館
- オンライン平和学習支援プログラム

一人芝居、朗読劇～表現者による語り継ぎ



一人芝居「生き地獄から戻ったわたし」(2019年秋の特別イベント)



亡き父の証言を朗読 「戦争に奪われた青春～少年兵のシベリア抑留体験」
(2019年秋の特別イベント)

語り部(故人)と家族、学芸員・解説員による語り継ぎ



トークイベント「元海軍特別年少兵・西崎信夫氏を語る」(2024.8.10)



語り部のお話(映像)
<https://www.heiwakinen.go.jp/library/>

変容する“語り継ぎ”の形

- 第一世代の「事実(体験)を語る方式」から、第二世代の「親が語らなかった当事者の気持ち」を語るストーリー性へ。
- 「戦争体験」から「平和講話」への移行傾向。
- 次世代語り部の“語り”に対する「参加者の学びの在り方」への着目。



「語り」は、時代に合った形へと変化するもの。
その変化に**自覚的であることが必要**。

新技術を用いた戦争体験の継承



平和祈念展示資料館バーチャル資料館
<https://www.vr.heiwakinen.go.jp/>



平和祈念交流展「シベリアからの生還 リトアニア人たちの流浪物語」(2024)

オンライン平和学習支援プログラム



赤紙きたる
戦争に巻きこまれた
兵士と家族

平和祈念展示資料館
オンライン平和学習支援プログラムのご案内

平和祈念展示資料館(戦争体験)は、第二次世界大戦における、兵士、戦後強制抑留者、海外からの引揚者のつらい体験を伝える絶好の場です。
当資料館では、戦争や平和について考えていただくために、学校への資料貸出と、資料館スタッフによるオンライン授業を組み合わせました。
平和学習支援プログラムを開始しました。平和学習や施設教育、聯合の学習などに活用ください。

(兵士)
資料貸出

(戦後強制抑留)
資料貸出

(海外からの引揚げ)
資料貸出

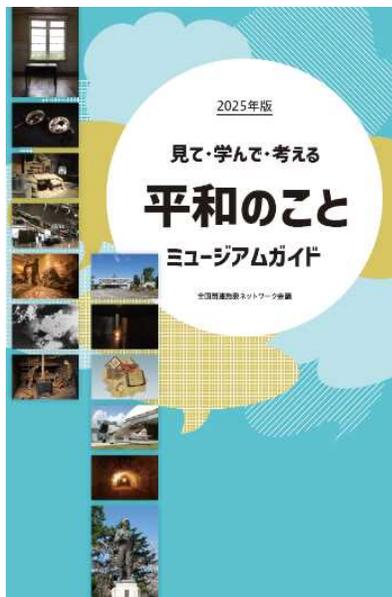
平和祈念展示資料館(総務省委託)
TEL:03-5263-8711 学習支援担当 e-mail:info@heiwakenen.jp

教室で資料を見たり触ったりしながら
学習できる！！



ぶんかる いきいきミュージアム080 「教室と博物館をむすぶオンライン授業の可能性」
https://www.bunka.go.jp/prmagazine/rensai/museum/museum_080.html

全国関連施設ネットワーク会議



ミュージアムガイド
<https://www.heiwakinen.go.jp/about/pamphlet/>



「関連施設をめぐるパネル展」
 2025.7.1~7.13

まとめ① 戦争体験をどう継承するか？

- まずは知ってもらう機会をつくる。知らないことは伝わらない。
- 「心のフック」を増やすための工夫。
- 「自分と繋がっている戦争」を感じられる場を作り続けること。



体験者から、ともに伝える継承者へ

まとめ② 戦争体験をどう継承するか？

体験者から非体験者へ引き継がれ
様々な手法で再構築される戦争体験



客観性の担保となるもの、つまり
資料や記録を後世に引き継ぐ
まさに、博物館・資料館の果たす役割

ご清聴ありがとうございました。